

平成17年6月期 第1四半期業績の概況（連結）

平成16年11月12日

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社（コード番号： 7707 大証 ヘラクレス市場）
 （URL <http://www.pss.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 田島 秀二（TEL 047-303-4800）
 責任者役職・氏名 取締役業務本部長兼経営企画部長 秋本 淳

1 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無

2 平成17年6月期第1四半期の業績概況（平成16年7月1日～平成16年9月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		当期(四半期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年6月期第1四半期	650	27.1	48	-	42	-	43	-
16年6月期第1四半期	512	50.0	44	-	69	-	74	-
(参考)16年6月期	2,506	3.0	126	-	174	-	181	-

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
17年6月期第1四半期	1,037	68	-	-
16年6月期第1四半期	2,104	20	-	-
(参考)16年6月期	4,539	04	-	-

(注) 持分法投資損益 17年6月期第1四半期 - 百万円 16年6月期第1四半期 - 百万円 16年6月期 - 百万円
 期中平均株式数 17年6月期第1四半期 41,468株 16年6月期第1四半期 35,331株 16年6月期 39,877株
 会計処理の方法の変更 無

売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

17年6月期第1四半期及び16年6月期第1四半期の営業利益等の対前年同四半期比増減率につきましては、営業利益等がマイナス値であるため記載しておりません。

17年6月期第1四半期及び16年6月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、新株予約権残高等がありますが、当期純損失が発生しているため記載しておりません。

17年6月期第1四半期及び16年6月期第1四半期に係る数値につきましては、監査法人の監査を受けておりません。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産		株主資本		株主資本比率		1株当たり株主資本	
	百万円	%	百万円	%	%	円	銭	
17年6月期第1四半期	4,519		2,994		66.3	72,213	11	
16年6月期第1四半期	4,708		2,857		60.7	70,467	65	
(参考)16年6月期	4,874		3,032		62.2	73,138	16	

(注) 期末発行済株式数 17年6月期第1四半期 41,468株 16年6月期第1四半期 40,548株 16年6月期 41,468株

3 平成17年6月期の連結業績予想（平成16年7月1日～平成17年6月30日）

	予想売上高		予想経常利益		予想当期純利益		1株当たり予想当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
中間期	1,200		36		36		-	-
通期	2,800		100		100		24,114	98

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項につきましては、添付資料3ページをご参照ください。

平成 17 年 6 月期 第 1 四半期業績の概況(連結)

(1) 経営成績

	平成 16 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)	平成 17 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)	対前年同期 増減率	参考 平成 16 年 6 月期 (通期)
	百万円	百万円	%	百万円
売上高	512	650	27.1	2,506
売上総利益	216	269	24.3	952
営業利益	44	48	-	126
経常利益	69	42	-	174
当期純利益	74	43	-	181

当第 1 四半期は、連結売上高 650 百万円(前年同期比 27.1%増)と大幅な増収確保となりました。当社製品は OEM(相手先ブランドによる販売)を中心に展開しており、主力 OEM 先はロシユグループおよびキアゲグループの 2 社となっております。例年、夏場を含む第 1 四半期は、両社への出荷が低調になる傾向がありますが、その中においては堅調に推移したものと考えております。

当第 1 四半期のトピックスとしては、韓国ファイナンス・テクノロジー・インターナショナル社(以下、「FTI社」という。)との間に、(株)ポストゲノム研究所と共同開発中の「全自動タンパク質合成システム」に関する、日本を除くアジア圏での独占販売権の付与契約を結んだことがあげられます。同権利代金 100 百万円をその他営業収入として売上計上しておりますが、同収入に関しては、「全自動タンパク質合成システム」の製品化に向けた開発活動や試薬入手ルート確保などの活動に充当していく予定であり、通期の収益面に与える影響は軽微であると考えております。当第 1 四半期に関しましても、それら活動費用をその他営業収入原価に計上しておりますので、その他営業収入に関連した売上総利益としては 33 百万円の計上に留まっております。

同収入も含めた全体の売上総利益としては、DNA 自動抽出装置が順調に出荷したこともあり、269 百万円(前年同期比 24.3%増)と大幅な増収確保となりました。一方で、糸状 DNA チップであるバイオストランド関連を中心に開発費 91 百万円を計上したことなどから、販売費及び一般管理費は 317 百万円(前年同期比 21.8%増)となり、これら費用を吸収しきれず、営業損失 48 百万円(前年同期比 4 百万円の増額)の計上となりました。

営業外収支としては、前年同期における公募増資に伴う新株発行費用 16 百万円が当第 1 四半期は発生していないこと、為替相場においてユーロが堅調に推移したことから為替差益 11 百万円が発生したことなどから、経常損失 42 百万円(前年同期比 27 百万円の減額)、当期純損失 43 百万円(前年同期比 31 百万円の減額)となり、損失額が改善される結果となりました。

(FTI社との契約について)

FTI社は、韓国の投資会社であり、バイオ・IT・フードサービス産業などへの投資を行っております。今般は、「全自動タンパク質合成システム」の市場性に興味を持っていただき、100 百万円の対価をもって、完成後には日本を除くアジア圏における独占販売権を得るという契約に調印したものであります。

当社としては、製品化に向けたシステム開発や試薬入手ルートの確保などの費用が発生いたします。本契約は、FTI社に独占販売権を与える見返りとして、これら費用を負担していただいたようなものであり、当社としては、投資リスクを抑えながらも、事業展開が可能な体制作りを実行できたものと考えております。平成 17 年 6 月を目前に、(株)ポストゲノム研究所と共同でシステムの完成を目指してまいります。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	平成 16 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)		平成 17 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)		対前年同期 増減率	参考 平成 16 年 6 月期 (通期)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA 自動抽出装置等	255	49.9	323	49.7	26.5	1,723	68.8
その他理化学機器	99	19.5	26	4.0	73.7	146	5.8
その他製品	26	5.2	43	6.7	63.6	136	5.5
商品(プラスチック消耗品)	129	25.3	156	24.1	20.9	499	19.9
その他営業収入	-	-	100	15.4	-	-	-
合計	512	100.0	650	100.0	27.1	2,506	100.0

DNA 自動抽出装置等

当区分は、当社の国際特許技術である「マグレーション・テクノロジー」を利用した自動化装置の区分であり、DNA 自動抽出装置の他、免疫化学発光測定装置も含まれております。DNA 自動抽出装置に関しては、バイオ研究分野の進展に伴い、多検体の短時間処理が必要となってくるため、その需要は拡大していくものと当社では考えております。

当第 1 四半期は、主力 OEM 先であるロシユグループ、キアゲグループともに順調な出荷となり、150 台の販売実績で売上高 323 百万円(前年同期比 26.5%増)となりました。例年、夏場を含む第 1 四半期は、出荷が低調となる傾向がありますが、その中においては堅調に推移したものと考えております。また、(株)三菱化学ヤマトン向けの新規 OEM 製品である小型免疫化学発光測定装置「PATHFAST」に関しましては、9 月より量産機の出荷が開始されております。第 2 四半期以降、本格的に業績に寄与してくるものと期待しております。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。なお、装置単価は機種により1台あたり百万円台から3千万円台までばらつきがあるため、変動しております。

(単位:千円、台)

	平成15年6月期				平成16年6月期				当期
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期
ロシユグルーブ	63,131	115,500	278,599	338,875	170,680	182,498	196,165	594,508	140,965
キゲングルーブ	68,305	151,993	278,989	128,177	57,373	33,670	143,948	172,952	160,711
その他	48,460	75,836	48,497	14,650	27,727	6,943	33,189	103,463	21,967
合計	179,897	343,330	606,086	481,702	255,781	223,112	373,304	870,924	323,644
販売台数	63	139	276	176	89	101	161	297	150
販売単価	2,855	2,470	2,195	2,737	2,874	2,209	2,318	2,932	2,157

その他理化学機器

当区分は、研究施設などで利用される各種自動化機器の他、各省庁やその外郭団体などからの受託開発事業の区分であります。

当第1四半期は、売上高26百万円(前年同期比73.7%減)となりました。前第1四半期は、大型の試薬分注システムの販売がありましたが、当第1四半期はそういった販売が無く大幅な減収となりました。当区分の売上高は、特注システムの受注動向によって大きく変動いたしますが、現在はDNA自動抽出装置等の事業拡大に注力しておりますので、当区分の売上高に占める割合は低下していくものと考えております。

その他製品

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ(交換部品)販売、自社販売のDNA自動抽出装置に使用される核酸抽出・精製用のプレパック試薬、ソフトウェア開発などの区分であります。

当第1四半期は、売上高43百万円(前年同期比63.6%増)となりました。装置メンテナンスやスペアパーツ販売などは、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、当区分の売上高は、順調な伸長が期待できるものと考えております。

商品(プラスチック消耗品)

当区分は、装置の使用に伴い消費されるチップやカートリッジなどのプラスチック消耗品の区分であります。当社のDNA自動抽出装置等に使用される専用のプラスチック消耗品が中心となっております。

当第1四半期は、売上高156百万円(前年同期比20.9%増)と順調な増収となりました。プラスチック消耗品は、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後も順調な伸長が期待できるものと考えております。

その他営業収入

既述のとおり、FTI社からの独占販売権の付与契約に係る収入であります。

(2) 財政状態

当第1四半期における総資産は、前連結会計年度末に比べ355百万円の減少で4,519百万円となりました。

流動資産は、現金および預金が338百万円の減少、受取手形および売掛金が229百万円の減少(前連結会計年度末において計上されていたスポットの大口案件の売掛金が入金となったことによるもの)、たな卸資産が185百万円の増加(新規OEM製品を在庫に積上げたことによるもの)となり、全体では359百万円の減少で3,407百万円となりました。固定資産は、ほぼ減価償却費に見合った投資に留まっており、全体で3百万円の増加で1,112百万円となりました。

流動負債は、買掛金が234百万円の減少(売掛金の減少と要因は同じであり、大口案件に係る買掛金を支払ったもの)、短期借入金100百万円の減少となり、全体では299百万円の減少で878百万円となりました。固定負債は長期借入金のみであり、約定返済に伴い17百万円の減少で647百万円となりました。

自己資本は、当第1四半期の赤字計上などにより38百万円減少し2,994百万円となりましたが、総資産の圧縮により自己資本比率は66.3%となっており、前連結会計年度末の62.2%から改善されております。

(3) 業績予想

当第1四半期に関しては、FTI社からの独占販売権の付与契約に係る収入があり、売上高は予想を上回る結果となりましたが、既述のとおり、それに伴う経費も発生しており、また、開発費などにより販売費及び一般管理費も増加したことから、営業損益においてはほぼ予想どおりという結果となりました。総合的には、予想の範囲内と考えられますので、現時点での業績予想に変更はなく下記のとおりであります。

第1四半期末時点で、新規OEM先である(株)三菱化学ヤトロンからの受注を含めて、DNA自動抽出装置等の受注残高は539百万円(前年同期比63.1%増)となっており、今後3~4ヶ月程度で出荷していく予定となっております。これにプラスチック消耗品などの販売も加わりますので順調な売上計上が見込まれます。また、販売費及び一般管理費に関しましては、第2四半期以降の開発プロジェクトの管理徹底により、費用コントロールは十分に可能と考えております。

連結業績予想

	予想売上高	予想営業利益	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	1,200	20	36	36
通期	2,800	130	100	100

単体業績予想

	予想売上高	予想営業利益	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	1,085	10	26	26
通期	2,570	150	120	120

以上

第1四半期連結財務諸表

(1)第1四半期連結貸借対照表

区分	前第1四半期末 (平成15年9月30日)		当第1四半期末 (平成16年9月30日)		前連結会計年度末 (平成16年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
(資産の部)						
流動資産						
1 現金及び預金	2,337,005		2,198,803		2,536,976	
2 受取手形及び売掛金	525,172		490,522		719,544	
3 たな卸資産	414,546		617,352		431,757	
4 その他	396,654		100,967		79,662	
5 貸倒引当金	85		146		1,373	
流動資産合計	3,673,292	78.0	3,407,499	75.4	3,766,567	77.3
固定資産						
1 有形固定資産						
(1) 建物及び構築物	328,078		343,727		342,875	
減価償却累計額	63,933	264,144	73,669	270,058	72,905	269,970
(2) 機械装置及び運搬具	366,892		416,297		398,936	
減価償却累計額	178,387	188,504	249,071	167,225	230,255	168,680
(3) 工具器具及び備品	216,772		363,879		337,665	
減価償却累計額	113,840	102,931	180,732	183,147	158,573	179,091
(4) 土地		431,250		431,250		431,250
(5) 建設仮勘定		-		2,500		4,703
有形固定資産合計	986,831	21.0	1,054,180	23.3	1,053,695	21.6
2 無形固定資産						
(1) ソフトウェア	3,667		36,666		7,007	
(2) ソフトウェア仮勘定	-		-		21,579	
(3) その他	1,019		1,019		1,019	
無形固定資産合計	4,686	0.1	37,685	0.8	29,605	0.6
3 投資その他の資産						
(1) 投資有価証券	41,198		18,659		23,290	
(2) その他	2,048		1,632		1,573	
投資その他の資産合計	43,246	0.9	20,291	0.5	24,864	0.5
固定資産合計	1,034,764	22.0	1,112,157	24.6	1,108,165	22.7
資産合計	4,708,057	100.0	4,519,656	100.0	4,874,732	100.0

区分	前第1四半期末 (平成15年9月30日)		当第1四半期末 (平成16年9月30日)		前連結会計年度末 (平成16年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
(負債の部)						
流動負債						
1 買掛金	287,517		203,069		437,511	
2 短期借入金	175,000		-		100,000	
3 一年内返済予定の長期借入金	419,686		484,390		490,939	
4 未払金	71,689		141,106		102,442	
5 未払法人税等	3,397		3,092		2,290	
6 賞与引当金	13,671		15,850		3,962	
7 その他	48,232		30,516		40,499	
流動負債合計	1,019,195	21.6	878,026	19.4	1,177,645	24.2
固定負債						
1 長期借入金	827,606		647,097		664,193	
2 繰延税金負債	3,932		-		-	
固定負債合計	831,539	17.7	647,097	14.3	664,193	13.6
負債合計	1,850,734	39.3	1,525,123	33.7	1,841,839	37.8
(資本の部)						
資本金	1,874,783	39.8	2,024,978	44.8	2,024,978	41.5
資本剰余金	2,341,068	49.7	2,491,267	55.1	2,491,267	51.1
利益剰余金	1,371,912	29.1	1,521,604	33.6	1,478,574	30.3
その他有価証券評価差額金	5,801	0.1	12,805	0.3	8,173	0.2
為替換算調整勘定	7,582	0.2	12,697	0.3	3,395	0.1
資本合計	2,857,322	60.7	2,994,533	66.3	3,032,893	62.2
負債・資本合計	4,708,057	100.0	4,519,656	100.0	4,874,732	100.0

(2) 第1四半期連結損益計算書

区分	前第1四半期 (自平成15年7月1日 至平成15年9月30日)			当第1四半期 (自平成16年7月1日 至平成16年9月30日)			前連結会計年度 (自平成15年7月1日 至平成16年6月30日)		
	金額(千円)	構成比(%)		金額(千円)	構成比(%)		金額(千円)	構成比(%)	
売上高		512,097	100.0		650,756	100.0		2,506,015	100.0
売上原価		295,453	57.7		381,439	58.6		1,553,454	62.0
売上総利益		216,644	42.3		269,316	41.4		952,560	38.0
販売費及び一般管理費		260,944	51.0		317,833	48.8		1,078,996	43.0
営業損失		44,299	8.7		48,516	7.4		126,436	5.0
営業外収益									
1 受取利息	448			1,120			3,697		
2 受取配当金	9			8			26		
3 為替差益	-			11,746			-		
4 雑収入	1,297	1,755	0.3	947	13,823	2.1	3,574	7,298	0.2
営業外費用									
1 支払利息	9,220			7,389			30,619		
2 為替差損	-			-			3,515		
3 新株発行費	16,124			-			20,652		
4 その他	1,917	27,261	5.3	172	7,562	1.2	805	55,593	2.2
経常損失		69,806	13.6		42,255	6.5		174,731	7.0
特別利益									
1 貸倒引当金戻入	7	7	0.0	-	-	0.0	-	-	0.0
特別損失									
1 固定資産売却損	-			115			53		
2 固定資産除却損	3,972	3,972	0.8	-	115	0.0	3,752	3,806	
税金等調整前当期純損失		73,771	14.4		42,370	6.5		178,537	7.1
法人税、住民税及び事業税		572	0.1		660	0.1		2,467	0.1
当期純損失		74,343	14.5		43,030	6.6		181,005	7.2